

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2021-1006	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:三世帯コホート調査に参加した母児 約48,000人(24,000組) 試料:なし 情報:基本情報、調査票情報、カルテ転記情報、小児疾患発症調査情報
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			共同 研究機関	東北大学(医学系研究科、薬学研究科、大学病院) 福島県立医科大学
研究題目	周産期の精神疾患領域の服薬状況と母児の転帰との関連			研究期間	承認後～2025年6月
実施責任者	小原 拓	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位 准教授
研究目的と意義	周産期の精神疾患領域の服薬については、児や母体のリスクに関する報告がある一方で、精神症状の再燃予防や産科合併症の防止などのベネフィット(利益)の報告もあります。したがって、周産期の精神疾患領域の服薬では、リスクとベネフィット(利益)のバランスを考慮する必要があります。本研究の目的は、周産期の精神疾患領域の服薬状況と、母親の妊娠中および出産後の健康状態、ならびに児の発達・発育との関連を明らかにすることです。				
研究計画概要	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の周産期における精神疾患領域の服薬状況を検討します。 ・周産期に精神疾患領域の服薬があった女性となかった女性の健康状態、お子さんの発達・発育状況を比較検討します。 				
期待される成果	周産期の精神疾患領域の服薬を判断するうえで有用な結果を得ることが期待されます。				
これまでの倫理 審査等の経過	2021年6月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認				
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	研究の実施にあたっては、人を対象とする生命科学・医学系研究倫理指針、ToMMoセキュリティポリシーのほか、別途締結する研究契約に沿って遂行します。 共同研究機関の福島県立医科大学へはHDD上で利用する情報を提供し、スタンダード環境下で解析が実施されま す。				
その他特記事項	大学運営費				
* 公開日	令和3年8月19日				